

# 発明の名称: サイトカイン遺伝子多型による 抗がん剤副作用の予測方法

利用・用途・応用分野

無料開放特許

がん治療における抗がん剤の副作用の予測

目的・課題

これまでの様な個々の薬剤代謝に係る遺伝子ではなく、細胞への刺激に対する応答に関与するサイトカインに着目して、ある細胞のサイトカイン遺伝子に存在する多型からその細胞に対する抗がん剤の副作用を予測する方法を提供することを目的とする。

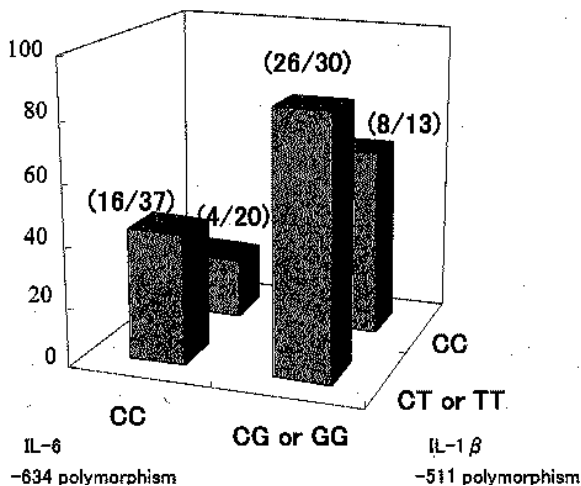
解決ポイント

サイトカイン遺伝子に存在する多型と抗がん剤投与による副作用との関係について研究を進め、サイトカイン遺伝子のプロモーター領域に存在する多型が抗がん剤の副作用と相関があるという事実を見出した。  
被験細胞の炎症性サイトカイン遺伝子のプロモーター領域に存在する多型を検出し、抗がん剤の炎症に起因する副作用を予測する方法である。

研究概要・アピールポイント

抗がん剤(5-FU、CDDPのうち少なくとも1つ)による副作用をサイトカイン遺伝子に存在するプロモーター領域の塩基多型に基づいて予測するものであり、抗がん剤を用いる医療の現場でその副作用を予測し、個々の患者さんにとって適切な薬剤を選択するための有効な手段を提供するものである。またこの目的のために、本発明の提供する検査試薬(核酸合成酵素、dNTP、プライマー等を含むセット)を使って対象となる遺伝子領域を増幅し、多型を検出する。

IL-1βの-511C/T多型及びIL-6の-634G/C多型と抗がん剤による副作用の1つである血小板減少との間の関係を示す。  
IL-1βの-511TとIL-6の-634Gの両方を持つ群では87%が血小板減少を示しこの2つを持たない群(20%)に比べて遙かに高い値を示した。



◆ お問い合わせ先 ◆

有限会社山口ティール・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail: tlojim@yamaguchi-u.ac.jp